

## パンジーの閉鎖系エブアンドフロー給水における培養液管理技術

農業総合研究所

## 要旨

閉鎖系エブアンドフロー給水システムは灌水施肥作業を大幅に省力化でき、環境への負荷も少ないシステムであるが、徒長による品質の低下や、基肥を投入しないことによる出荷後の生育劣化などの問題がある。出荷2週間前に圃試処方培養液を1/8倍液から1/2倍液に変更することにより、出荷期にはコンパクトで、小売店店頭および花壇定植後の生育、開花は旺盛となる高品質な花壇苗を生産することができる。

## 成果の概要

圃試処方培養液を200リットルタンクに充填し、循環利用して、約半量になった時点で所定の濃度に調整した培養液を補充した。なお、給水は1日1回、20分間、水位1.5cmとした。

出荷期の2週間前までは低濃度の1/8倍液を用い、出荷期の2週間前に1/2倍液に変更することにより、出荷期の草丈は低く、株径は小さくなり、コンパクトな苗となる(図-1, 2)。

培養液濃度を変更すると、露地定植28日後の草丈、株径が増加し、小売店店頭を想定した日陰管理7日後および露地定植28日後の開花輪数も多くなる(図-3)。

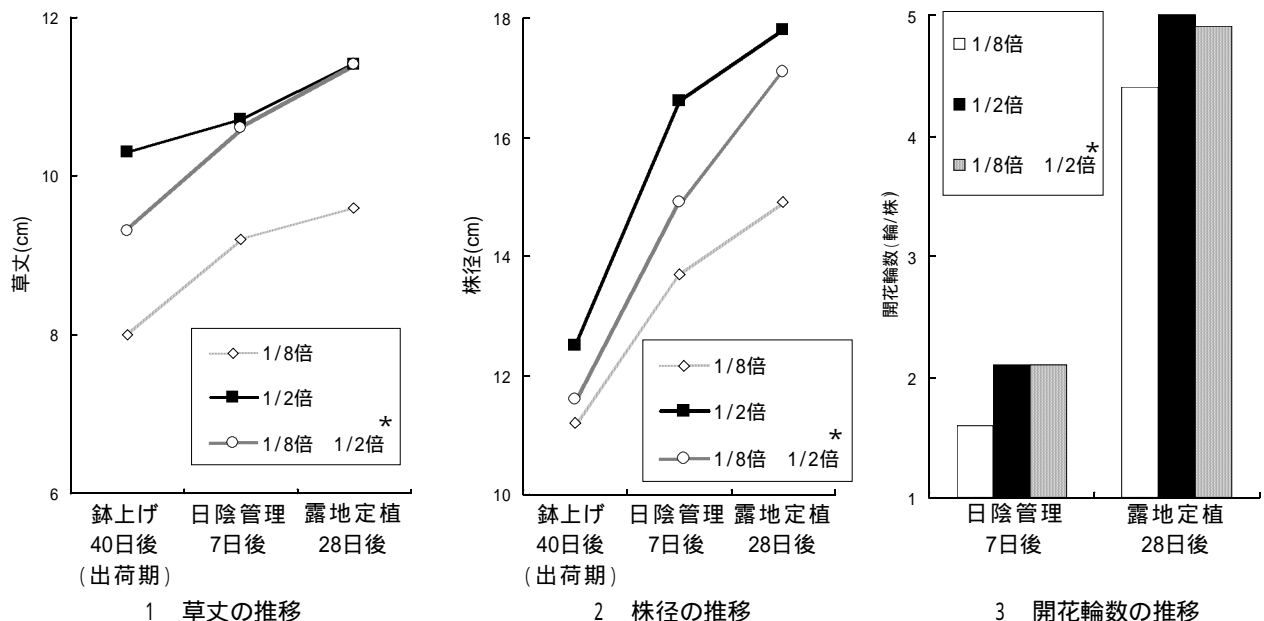


図 培養液管理の違いがパンジーの生育に及ぼす影響

供試品種: ニュークリスタルエロー

播種日: 平成15年8月13日

鉢上げ日: 平成15年9月10日

\*: 出荷2週間前に1/8倍から1/2倍に変更した。

(問合せ先: Tel. 0771-22-0429)